

1 電子カルテとリンクした輸血患者認証シ
2 ステムについて
3

4 ○池上理香 立石寿美子 吉崎英清（千葉県済生会
5 習志野病院）
6

7 【はじめに】輸血事故の原因は、患者や製剤の取り
8 違いなどによるヒューマンエラーによるところが少
9 なくない。当院では事故防止対策の一環として、リ
10 ストバンドによる輸血患者認証をベッドサイドの電
11 子カルテ上で確認できるシステムを運用している。
12 電子カルテ（EGMAIN・FX：富士通）と輸血管理シ
13 ステム（BLAD）をリンクさせる事によって、ヒュー
14 マンエラーを排除し、より安全な輸血療法の実施
15 に活用しているので報告する。

16 【システムの運用】輸血検査室では BLAD で輸血前
17 検査・血液製剤の依頼を受け、血液型・不規則抗体・
18 交差適合試験を実施し適合製剤の払い出しを行う。
19 適合製剤は各々の輸血実施場所において依頼医師が
20 製剤バーコードと電子カルテを照合させ、〔受領確
21 認〕を実施。ベッドサイドでは無線 LAN で接続さ
22 れたノートタイプ PC で患者リストバンドのバー
23 コードから該当患者カルテを呼び出し〔患者認証〕を
24 行う。その際、輸血室から電子カルテに送られてい
25 る製剤情報と患者情報が検証され、照合した場合の
26 み認証される。これら一連の情報は電子カルテを通
27 し BLAD へ瞬時に送られ、輸血室で実施状況の確認
28 が可能となっている。そのため手術中などの製剤使
29 用状況がリアルタイムに確認でき、輸血検査業務や
30 製剤発注なども効率よく実施可能となった。

31 【まとめ】輸血室情報が電子カルテとリンクする事
32 によって機械的認証が行われ、思い込みや勘違いに
33 よるヒューマンエラーを極力排除する事が可能とな
34 った。また、依頼医師が製剤指示を電子カルテ上で
35 確認できる事により輸血過誤の防止にもなる。電子
36 カルテとリンクした輸血患者認証システムを用いる
37 事は、これら事故防止に大きな効果があり、輸血室
38 業務の効率化にも大きく貢献している。

39 連絡先：047-473-1281